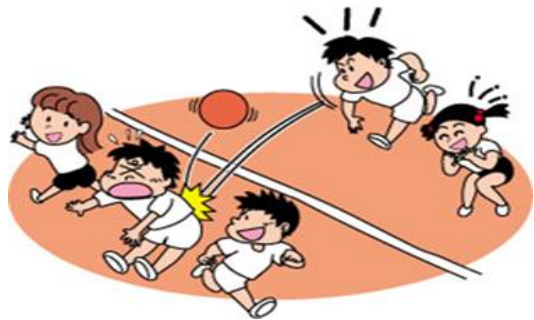


R7 校内研究 体育サークル

体育科の授業における「内谷中学校区の9年間を見通した小・中一貫カリキュラムの研究～試行錯誤しながら、粘り強く学習に取り組む児童の育成～」について



内谷中学校区の9年間を見通した小・中一貫カリキュラムの研究
～試行錯誤しながら、粘り強く学習に取り組む児童の育成～

1 体育科の授業における 研究主題の目指す児童像



「試行錯誤しながら」とはトライ＆エラー！



- ①自分（自分たち）の実態を知る。（課題把握）
- ②友達、先生の意見や技を聞く、見る。
- ③自分に合った（やってみたい）練習法や場を選ぶ。
- ④繰り返し取り組む
 - ・ 技や試合をやってみる
 - ・ 自分に合っているのかやりながら考える。

「粘り強く」とは

- ・ 上手くいかなかったとしても、原因を自分なりに分析する。
- ・ 自分にとって最適な方法を導き出すための考える姿勢
（同じことをやり続けるわけではない。）
- ・ 自分の気持ちをコントロール（制御）しながら目標に向かって諦めずに。

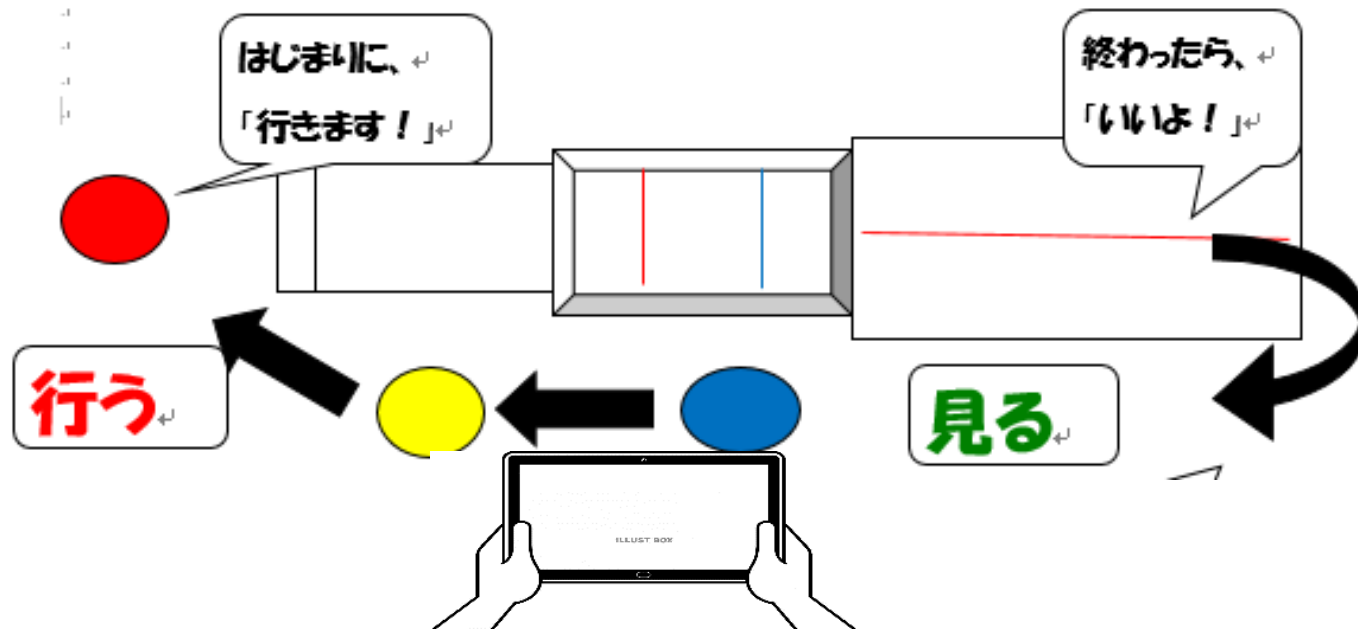


「自分で考える」とは

- ・ 指示を待つのではなく、何が自分に必要か思考すること。
(友達のアドバイスもヒントに。)

「自分で決める」とは

- ・ 自分がこれならやってみられるかも！できるかも！
チャレンジしたい！と思えるものを決めること。



指導の柔軟さ

【 R6の反省】

- ①授業中の試行錯誤をより発展的に行う。
- ②運動の得意、苦手の差が大きい。



【 R7に向けての仮説】

- ①課題解決時間と主運動の時間を繰り返してくことで子どもたちがより試行錯誤をできるのではないか。
- ②運動が得意な児童も苦手な児童も「わかる」という視点を入れることで、「できた」り、「もっとやりたい！」と思ったりなるのではないか。

R7 体育サークルのテーマ

『前向きに運動に取り組む児童の育成

～「分かった」「できた」「もっとやりたい！」～』

内谷中学校区の9年間を見通した小・中一貫カリキュラムの研究
～試行錯誤しながら、粘り強く学習に取り組む児童の育成～

2 研究授業のまとめ (成果と課題)

「試行錯誤しながら、粘り強く学習に取り組む児童の育成 ～自分で考え、自分で決める～」

日時：令和7年 10月 7日（火）第5校時

授業者：櫻澤 一哉

単元名：陸上運動 走り幅跳び

○成果

- ・課題解決の場が主運動につながった。
- ・東京タワーと同じ高さを目指すという楽しみながら取り組める良い工夫となっていた。
- ・掲示物を使い、助走や踏切のポイントを発問を通して児童から引き出そうとした。
- ・展開の中で児童の見本を見せ、視点をしっかりおさえていた。その後の練習でより意識して跳ぶことができる児童が増えたのではないか。

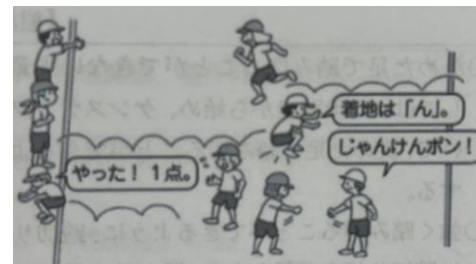
●課題

- ・教師がより一層具体的でレベルの高い声掛けをしていく必要がある。
→「いいね」だけではない、技能に着目した声掛け「リズムアップOKだね」等の声掛け、できた時になぜを問うなど。
- ・3人組での教え合い、伝え合いが活発とはいえなかった。踏切は「バン」と音がするからできているできていないがよく分かりアドバイスもしやすいが、助走においてリズムアップできていない友達にどうやったらできるかのアドバイスはどのようなことを伝えたらよいのかが難しい。

【研究主題との関わり】

手立て①

パワーアップタイムの工夫

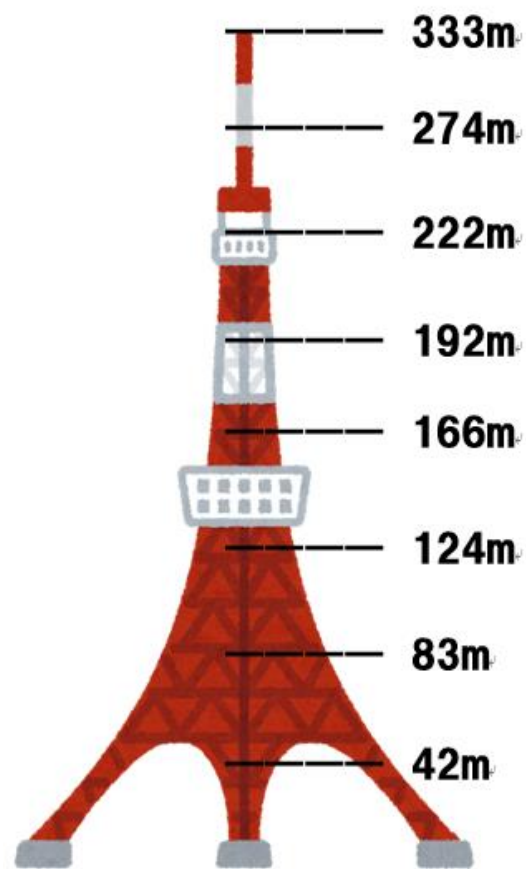


手立て②

課題解決のための場づくり

手立て③

集団達成



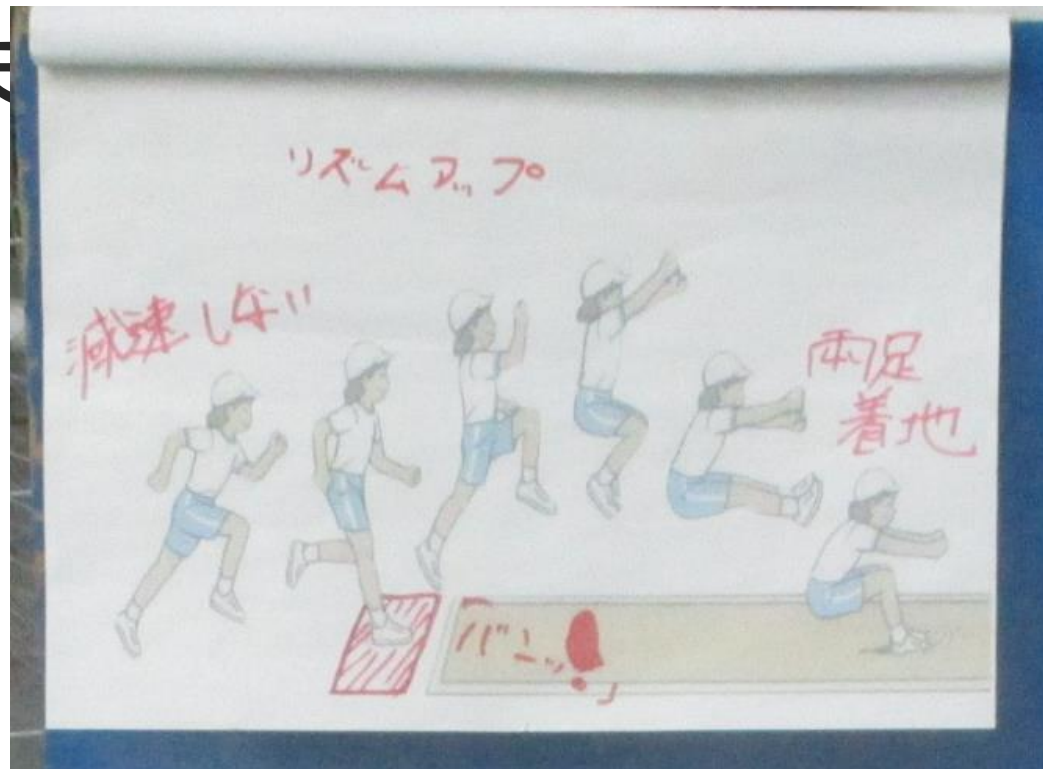
【研究主題との関わり】

手立て④

タブレット型端末の活用による学び合いタイムの設定

手立て⑤

掲示物の工夫



内谷中学校区の9年間を見通した小・中一貫カリキュラムの研究
～試行錯誤しながら、粘り強く学習に取り組む児童の育成～

3 体育の授業改善のポイント

「よい体育授業の条件」

浦和大里バージョン 2



【 R6の反省】

- ①授業中の試行錯誤をより発展的に行う。
- ②運動の得意、苦手の差が大きい。



【 R7に向けての仮説】

- ①課題解決時間と主運動の時間を繰り返してくことで子どもたちがより試行錯誤をできるのではないか。
- ②運動が得意な児童も苦手な児童も「わかる」という視点を入れることで、「できた」り、「もっとやりたい！」と思ったりなるのではないか。

R7 体育サークルのテーマ

『前向きに運動に取り組む児童の育成

～「分かった」「できた」「もっとやりたい！」～』

R6

目標達成

安心

楽しい

児童主体

友

友

場

声掛け

ルール

ICT

単元計画

学 習 規 律 (安全)

授業者 (教材研究・思い)

R7

目標達成

もっとやりたい

分かった

できた

児童主体

友

友

パワーアップタイム

教材・教具

場

声掛け

ルール

ICT

単元計画

学習規律 (安全)

授業者 (教材研究・思い)

① 単元・指導計画について

- ・ 児童の実態をふまえた上で具体的な目標設定。
- ・ 単元計画作成の際に学習指導要領解説の確認をする。単元目標の設定。

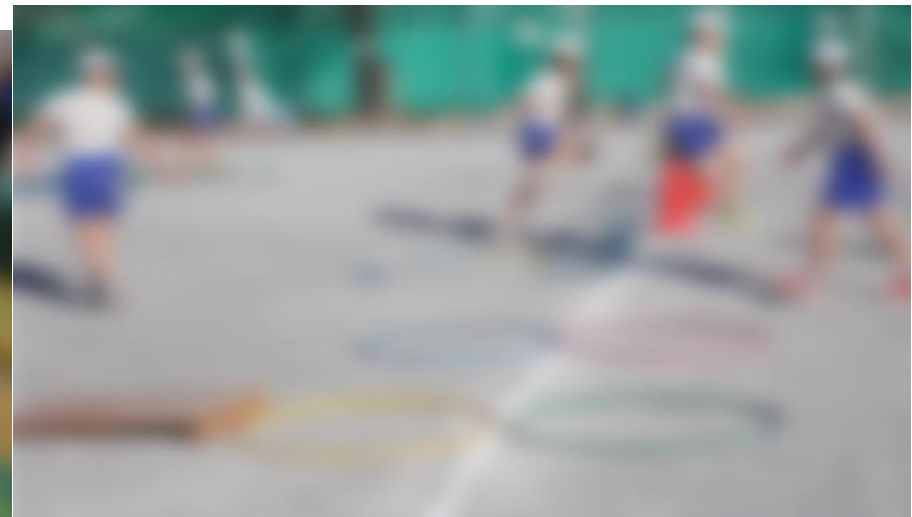
(今回のハードル走においては、ハードル走ではハードルをリズムカルに走り越えること。) **知識・技能**

- ・ スモールステップで技能を習得できるような流れを作成する。

時間	1	2	3	4	5
ねらい	ハードル走の大切なポイントを確認して学習計画を立てる。 第1ハードルを決まった足で走り越える。	体のバランスを取りながら走ることが出来る。 第1ハードルを決まった足で走り越える。	自分に合ったインターバルを見つけている。	自分の経験をもとに、解決する練習方法を選択する。	自分の経験に合わせた練習に取り組み練習を解決する。 今までの学習を活かしてハードル走に取り組む。
指導内容	・準備・片付け、安全面の確認をする。 ・はじめの測定をする。 ・ハードル走の大切なポイントを知る。 ・学習計画を立てる。 ・第1ハードルまでにスピードを上げる。 ・第1ハードルまでの歩	・ふり上げ足はゆっくり伸ばして走り越える。 ・踏み足を早く前に振り出す。 ・上体が前傾姿勢になるように走り越える。	・踏み切る位置を決める。 ・インターバルの歩数を決める。	・競技の様子を観望して自分の経験を見つけている。 ・経験に合わせた練習方法を選択できるようにする。	・児童の経験に応じた指導を行う。 ・記録会
学習過程	1 集合・あいさつ・服装確認・健康観察・準備体操 2 パワーアップタイム（ハードル体操・イメージトレーニング・踏み足練習） 3 はじめの測定 4 走りエンターテインメント ・学習の共通しをもつ。 ・準備の仕方やあまりの練習をする。 ・はじめの測定 ・ハードル走の大切なポイントを知る。				
	3 経験解決学習 1番ハードル・ケンスアップ 所スタートから1番目までの距離2m 走とめ、振り振り 準備運動・あいさつ・片付け	4 経験解決学習 （2時間目）一歩ハードル 練習をたがず練習 練習をたがず （3時間目）2番ハードル・ケンスアップ インターバル4.5m、5.5m、6mの練習 コース。	4 観察タイム ・タブレットで競技を観望し自分や友人の経験を身につける。 ・各タブレットで競技を観望し経験が活かされているか相互に確認する。	4 経験解決学習 ・経験解決のための場を 選択し学習に取り組む。 5 記録測定	4 記録会

② 場

- ・ 子どものさまざまな課題に合わせた場を用意する
（皆ができる場・下位教材・スモールステップ）
- ・ それぞれの場がどのような人に合っているのかわかりやすく示す
（掲示物、マグネット等を活用して）
- ・ 子どもからの提案。（これがあったらいいな…）



③ 補助（声掛け）

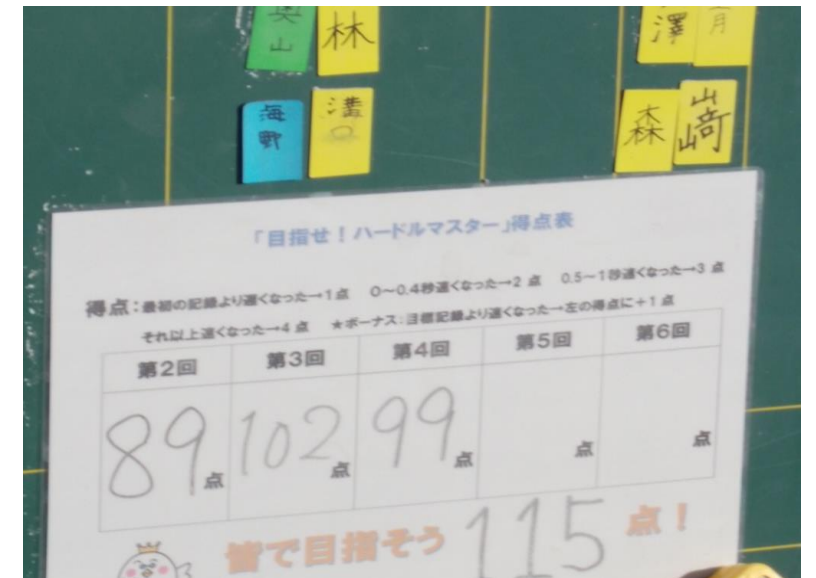
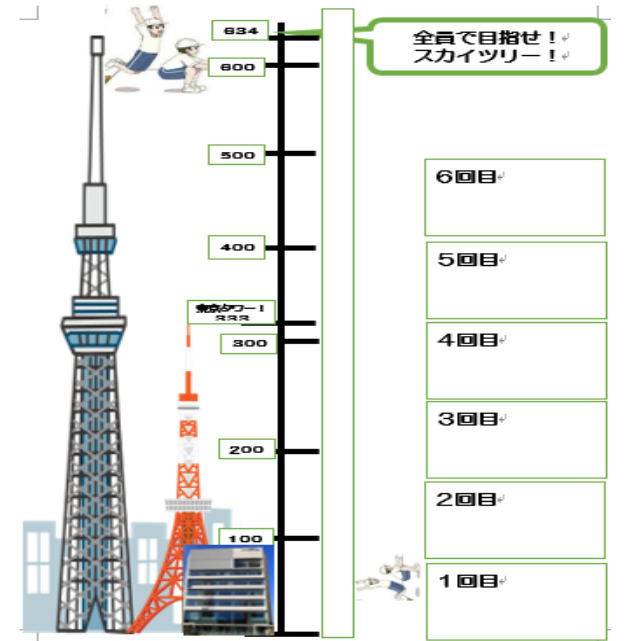
声かけの種類	一般的	具体的
肯定的	「いいね」「うまいね」	「〇〇さん、足がグッと上がっているね」
矯正적	「こうしなさい」	「〇〇さん、胸まで高くあげてみよう」
否定的	「だめ」「ちがうよ」	「〇〇さん、その上げ方じゃだめだよ」

- **肯定的な声かけが多い ⇒ 試行錯誤・粘り強さ・活発さ**
（体育の授業の根幹）
- **楽しむ仕掛け、掲示**
- **苦手な児童への対応**



④ ルール作り

- ・「がんばれる」「楽しめる」ルールを自分たちでつくる。
やる気UP！ ルール覚えられる！
- ・個人競技→集団達成型に。やる気UP！



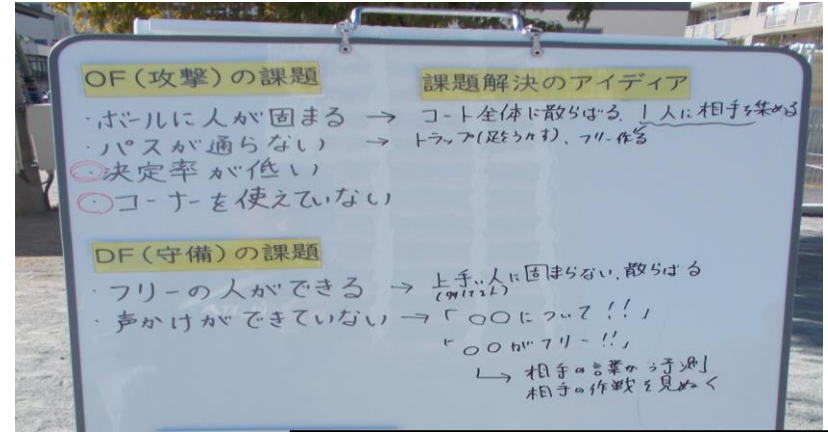
⑤ ゆるやかなICTの活用

- ICTは一つの選択肢
「ちょっと見てごらん」
と刺激を与える。
- 自分の技と手本を見比べ
課題を見付ける。



⑥ 「教材・教具の工夫」

- 動きのポイントの掲示
→ クラスの課題として書き足していく。
- チェックシートの活用
→ 何で「できた」なのかを明確に
- パワーアップタイムを集団達成型に
→ ただやるのではなく、「どうすればできる」
「なぜできたのか」を共有する。
- 振り返りカードへの記入
→ 「できた」ことを記入することで、自分の頑
張りを振り返り評価できるようにした



ハードル走チェックシート

	チェック項目	✓
①	全てのハードルを同じ足で跳び越えている。	✓
②	走り越えのときに、体が前にたおれている。	✓
③	インターバルの歩数が3歩か5歩になっている。	✓
④	遠くからふみ切りをできている。	✓
⑤	近くに着地をしている。	✓
⑥	踏切足が真っすぐ伸びている。	✓
⑦	抜き足が真横に向いている。	✓

できた

分かった

4年組 ()

プレルボール学習カード

学習のめあて

① いろいろな高さのボールをはじいたり、味方にパスしたり、相手コートに打ちつけたりしよう。
② チームに合った練習を行い、攻め方や守り方の作戦を考えよう。

【自分で決めたプレルボールのめあて】※どんなことをがんばりますか？

〇振り返り

日付	めあて	今日のできた!	上手になるために大切なことは?	今日の試合結果
/	① 学習の流れを知ろう			対戦相手 【 】 () 対 () 勝ち・負け
/	②			対戦相手 【 】 () 対 ()

⑥ 「教材・教具」

・ 作戦ボードの活用
→ 作戦を見える化し、考えを伝え合う。

・ 作戦タイムの充実
→ 作戦と作戦ではないものを区別し、具体的に提示した。

・ 個人で身に付ける教具。(幅跳び)
→ **スタート場所**を決める。自己調整がしやすい。
→ どちらの**踏切足**で跳べたのか教え合いがしやすい。

◎ 作戦(あたり前以上)
・ ボールの強弱
・ 1番と3番(守り方)
・ 人と人の間
・ フェイント



× 作戦ではない(あたり前)
・ 声をかける/アドバイスする
・ 味方にやさしくパス
・ 名前をよぶ
など



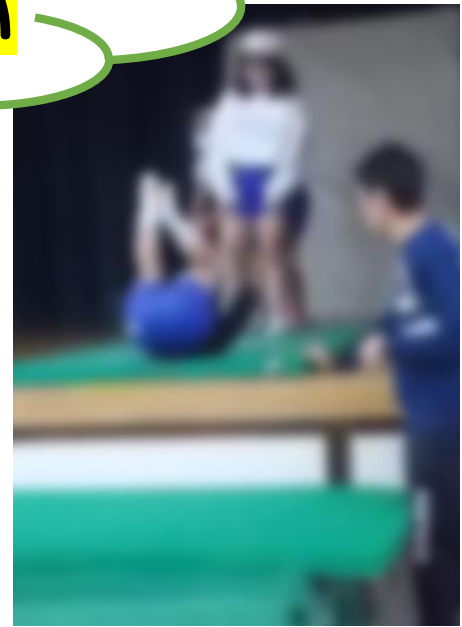
分かる視点→見る視点(教え合いに)

⑦ 「パワーアップ タイム」

もっとやりたい

- ・ 楽しく子どもがやってみたい！
やる中で自然と技能が身に付くように。
(トレーニングにならず、遊びを取り入れる。)

- ・ ルールの工夫
→ 簡単なルールから始め、できたことを評価しながら徐々に難易度をあげる



5-3 コーン通しバス集計表

	①	②	③	④	⑤
ボール投げ		27	46	44	61
スクワット		10	12		26
ミニバス	13	25	8	36	38
ボール投げ		12	11	18	23
スクワット		16	10	21	19
ミニバス		17	31	42	35
合計	107	107	118	161	202

5-5 コーン通しバス集計表

	①	②	③	④	⑤	
ボール投げ	62	65	67	67	66	96
スクワット	23	34	46	49	33	45
ミニバス	51	66	74	90	74	99



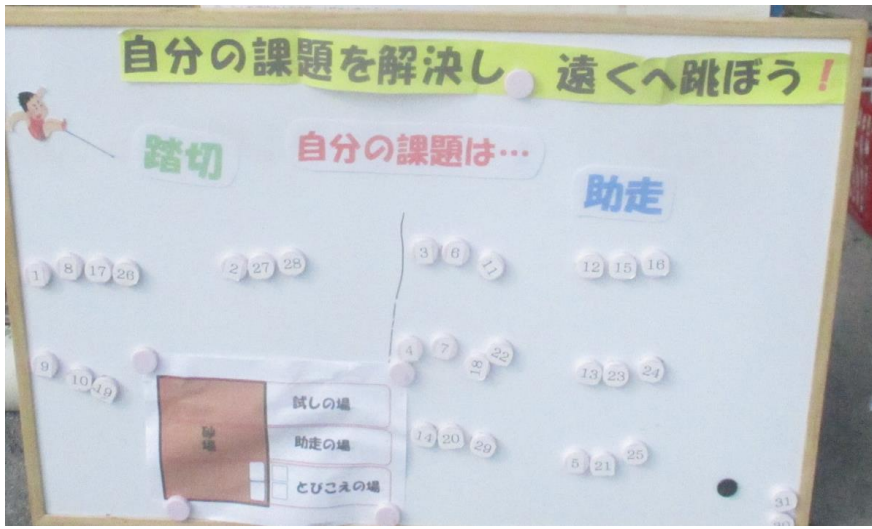
内谷中学校区の9年間を見通した小・中一貫カリキュラムの研究
～試行錯誤しながら、粘り強く学習に取り組む児童の育成～

4 体育科における カリマネの視点



「試行錯誤」

- 課題解決の場の設定
→ 自分の課題を確認し、選択する。



できたらつぎのレベルへいこう! 自分なりに気づきや得意なこと、分かったことを書きこんでいこう!

1 基礎練習	つみがきなっだまそい マット4枚くらい の上で助走		
2 1回目練習	2つつないである とびここの 上の上で助走 (おっくまはエパーマット) おんなびりしませむ。		
3 2回目練習	2つつないである 上の上で助走 (おっくまは3つめのマット) おんなびりしませむ。		
4 3回目練習	(3, 4, 5) さんの とびここの手をつき、 助走	とび欄1つ 	

